

文京学院



〈本郷キャンパス〉
学校法人文京学園
文京学院大学経営学部・外国語学部・
保健医療技術学部・大学院・文京学院
大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘 2-4-1
☎幼 03-3813-3771

〈ふじみ野キャンパス〉
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部
/大学院/文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市龜久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806
〈駒込キャンパス〉
文京学院大学女子高等学校/文京学院
大学女子中学校
〒113-8667 東京都文京区本駒込 6-18-3
☎03-3946-5301

渡部ゼミ生 「全国学生英語プレゼンテーションコンテスト」でトップ50に!

昨年12月9日に開催された「第6回全国学生英語プレゼンテーションコンテスト」(主催=神田外語グループ・読売新聞社)において、外国語学部・渡部吉昭准教授のゼミナール3年生の新井友一朗さん(プレゼンチームリーダー)、万雅源さん、松島妃杏さんが「トップ50」として表彰されました。

同大会の目的は、グローバル化が進むビジネスの現場で必要とされるコミュニケーションスキルの向上と、学生同士の真剣勝負の場の提供により学生間の親睦・交流を図ること。今回は大学生、大学院生、短期大学生、高等専門学校生、専門学校生から641人の応募がありました。

3名は、今回のテーマの1つ「新たなネット活用法を提案! 資源の共同利用」の一環として、畠で廃棄されている「規格外野菜」を個人営業の飲食店と繋ぐ「シェアリングエコノミーサービス」を一から考案してプレゼンテーションを実施。

審査は「内容」(興味をひく内容で、主張は充分な調査研究やデータに基づいているなど)「構成」(発表内容のテーマ及び論旨が明確であり、理路整然としているなど)「口頭発表力」(声の大きさが適切であり、聴き手を引き込む力があるなど)「説得力」(意欲や熱意、アピール力があるなど)「質疑応答」(質問内容に関する知識が豊富で、質問に対して明確な受け答えができる)の5つのスキルが対象となり、3名の「トップ50」入賞が決定しました。

新井リーダーは、活動を振り返り、次のように力強く語りました。「今回のコンテストのために、昨年4月から12月までの間、夏休みや土日も含め毎日活動してきました。『シェアリングエコノミーサービス』をテーマに、40箇所以上への取材や、長期間のグループワークを経験し、その中で何度も壁にぶつかりました。しかし、そういった失敗や経験の中で、このような本格的なプロジェクトを行うまでの段取り、取材における聴く力、チーム作業において個々がスキルを発揮できる空気作りなどの大切さを経験し、学ぶ事が出来たと実感しています。私たちが学んだ今回の経験を、就活や今後のキャリアでさらに活性化出来るよう頑張っていきたいと思います」



左から万さん、松島さん、新井さん

中学 2年の加藤さん 「本郷税務署長賞」受賞

国税庁と全国納税貯蓄組合連合会主催による「中学生の『税についての作文』」募集において、2年桃組の加藤真尋さんが「本郷税務署長賞」に輝きました。引率の今泉誠介教諭(中学2年学年代表)より、次の喜びのレポートが届きました。

「この作文の募集は、昭和42年から始められ、今年で51年目の伝統ある作文コンテストです。加藤さんの作文は『税金を納めることは、だれもが恵まれた暮らしを送ることにつながっている』という主旨を、力強い文章で表現した秀作でした。表彰式は昨年11月22日、文京シビックホールで行われ、数百人の出席者が各学校の受賞者を祝福しました。本校は『税務署長賞』とともに『全国納税貯蓄組合連合会学校感謝状』もいただき、水上茂中高一貫部校長が表彰されました」

また、昨年12月28日、加藤さんは、本郷税務署で一日税務署長を務めました。制服の上に「一日税務署長 加藤真尋」のたすきをかけて、税務署員の方々の前で受賞した作文を読み上げると、大きな拍手が贈られました。

加藤さんは、この受賞について「夏休みの課題として『税についての作文』を選び、一生懸命書きました。でも、このような賞を受賞できるなんて夢にも思いませんでした。小学生以来、表彰されるのも初めてです。誉めていた本当にうれしいです」と述べました。



★正準判別分析とは
例え、直近5年間に本学に入学した関東六県の女子学生100名について、最も好む服装や髪型、そして装飾品などをアンケート調査し、プロファイルデータを作成します

たいてい、自分が何を好むかを明瞭にしようとするものです。

Green Spirits.

正準判別分析に挑む ～ビッグデータによる疾病診断～

表1 本学関東一都六県出身の女子学生プロファイル例				
出身都県	項目1: 服装	項目2: 髮型	項目3:	項目100: 装飾品
東京都	清楚系	マッシュ	...	ネックレス
埼玉県	リクルート系	丸刈り	...	リング
茨城県	セレカジ系	ボブ	...	ピアス
群馬県	カジュアル系	ウルフ	...	ネックレス
千葉県	お姉様系	七三	...	アンクレット
神奈川県	キレイカジ系	シャギー	...	ブレスレット
新潟県	和服	マッシュ	...	ピアス

★正準判別分析の可能性
正準判別分析は、アンケート項目にあたる抗体を160種、都県にあたる項目を細胞の種類で14種とし、ここからガン診断法を確立するのに1年間を要しました。解析時間ですが、価値の低い鉱石の塊(ビッグデータ)から、既存のデータ分析では見つけられないなかったダイヤモンド(法則)を発見でき

ます。我々の研究室では、長時間が必要とする方法ですが、価値の低い鉱石の塊(ビッグデータ)から、既存のデータ分析では見つけられないかったダイヤモンド(法則)を発見でき

ます。我々の研究室では、長時間が必要とする方法ですが、価値の低い鉱石の塊(ビッグデータ)から、既存のデータ分析では見つけられないかったダイヤモンド(法則)を発見でき

ます。出身都県と

可能性を有している解析な

必ずしもリンクしない服装、髪型や装飾品の3項目では出身都県を決定することは不可能ですが、一見出身都県と関わりのないアンケート項目を100から200程度に増やすと、不思議な

ことになるが、これが正準判別分析です。



小松博義
保健医療技術学部教授

大学 大学 タッチフットの吉田さんがMIP受賞!

大学 島田理事長が外務省で講演

大学 「川越唐棟で彩るクリスマス」に学生が開催

大学 「まなびとあそびのキャンパス」に高校生160名

大学 硬式野球部が2部昇格へ!

大学 「島田杯」で本学が1,3位入賞!

島田昌和理事長・教授が昨年12月7日、外務省において「Do we really need business leaders?」(ビジネスリーダーは必要か)をテーマに講演を行いました。

同会議は内閣府日本の魅力アセラリアに参加し成城・アーマニア・ドーヴィー・英国・フランス・スペイン・ウクライナ・ボーランド・ルーマニア等からのMIRAI参加学生82名による講演を行いました。

島田昌和理事長は、「対日理解促進プロジェクト」(MIRAI Project)が運営する「ライブラリー事業」にて書籍を出版した著者等を講師として招き、欧州諸国から招請したMIRAI参加学生を対象に、著書を基礎とした講演等を実施することで、海外における島田理事長の著書『政治第一』(社会出版社)が、岩波書店が、企業家の先駆者(岩波書店)が、日本・ライブラリー事業に選出され、2017年3月に『The

島田昌和理事長・教授が昨年12月7日、外務省において「Do we really need business leaders?」(ビジネスリーダーは必要か)をテーマに講演を行いました。

同会議は内閣府日本の魅力アセラリアに参加し成城・アーマニア・ドーヴィー・英国・フランス・スペイン・ウクライナ・ボーランド・ルーマニア等からのMIRAI参加学生82名による講演を行いました。

島田昌和理事長は、「対日理解促進プロジェクト」(MIRAI Project)が運営する「ライブラリー事業」にて書籍を出版した著者等を講師として招き、欧州諸国から招請したMIRAI参加学生を対象に、著書を基礎とした講演等を実施することで、海外における島田理事長の著書『政治第一』(社会出版社)が、岩波書店が、企業家の先駆者(岩波書店)が、日本・ライブラリー事業に選出され、2017年3月に『The

島田昌和理事長・教授が昨年12月7日、外務省において「Do we really need business leaders?」(ビジネスリーダーは必要か)をテーマに講演を行いました。

同会議は内閣府日本の魅力アセラリアに参加し成城・アーマニア・ドーヴィー・英国・フランス・スペイン・ウクライナ・ボーランド・ルーマニア等からのMIRAI参加学生82名による講演を行いました。

島田昌和理事長は、「対日理解促進プロジェクト」(MIRAI Project)が運営する「ライブラリー事業」にて書籍を出版した著者等を講師として招き、欧州諸国から招請したMIRAI参加学生を対象に、著書を基礎とした講演等を実施することで、海外における島田理事長の著書『政治第一』(社会出版社)が、岩波書店が、企業家の先駆者(岩波書店)が、日本・ライブラリー事業に選出され、2017年3月に『The

THE SHIMADA CUP ENGLISH ORATORICAL CONTEST 2017「第23回 島田杯争奪英語弁論大会」が昨年11月25日、本郷キャンパスで開催され、本学が「優勝」と「3位」を勝ち取りました。

当日の出場者は、青山学院大学2名、慶應義塾大学2名、上智大学1名、立教大学1名、聖心女子大学1名、そして、本学から長島美菜さん(外国語学部3年)と浦田雅也さん(同2年)の9名。並み居る英語の強豪校による大迫力のスピーチが続く中、長島さんは“Identity and Belonging”(アイデンティティと居場所)をテーマにスピーチ。以下、要約です。

「あなたは誰ですか? 人はこう問われた時、カテゴライズをして可能性を狭めるか、自分の居場所を作ります。私は高校まで自分を“ハーフ”というカテゴライズで狭めっていました。しかしある時、カテゴライズするいい面も学びました。ある日、同性愛者の方と話をする機会があり、彼は次のように言いました。『LGBT という言葉のおかげで、自分が何者か怯えなくて済むし、LGBT のラベルは僕に居場所をくれる』他を評価するためにカテゴライズするのではなく、自分が居場所を決めるならば、それは安心感につながります」

また、浦田さんは“The Current Nuclear Weapons”(現在の核兵器)をテーマにスピーチ。以下、要約です。

「世界は核兵器の問題が後を絶ちません。核廃絶が要求されているにも関わらず、私たちはその可能性すら見えないのです。核を持つことが平和維持に繋がるという偽善の平和が世界中で駆け巡っています。北朝鮮の動向を批判し続ける核保有国ですが、核を持つ國が北朝鮮に対し核を持とうとする事を禁じるという矛盾があります。このような現在の世界において、世界唯一の被爆國である私たち日本人でできることは何であるのかを考えなければなりません」

審査は、スピーチ力を始め、内容、アピール力など多肢にわたりますが、最後の英語による質疑応答でスピーカーの理解力・実力が試されます。本学の2人は、これらの難題を見事にクリアし、長島さんは「優勝」、浦田さんが「3位」を獲得しました。

このエキサイティングな結果を受け、2人は次のように想いを語りました。

★長島「沢山の方に支えられたお陰で、島田杯で優勝する事が出来ました。今回私は、納得がいくまで何度も練習をしました。その際、ハンブ

ルトン・アレクサン德拉先生が原稿・スピーチなどを全面的に指導してくださいました。サンドラ橋樋先生、阿佐宏一郎先生、椿まゆみ先生、クリスティーン・ホーン先生、ケヴィン・マーフィ先生が授業中にスピーチの練習をさせてくださいました。また、友人や、これまでご縁のなかった人まで私のスピーチを聞いてくださいました。スピーチを通して学んだ事は言葉で表せないほど沢山あるのですが、一番感じた事はサポートの大切さです。今回の経験を糧に、これからも常に目標をもって頑張りたいと思います」

★浦田「この大会において、沢山の方に協力していました。非常に感謝しています。トピックの選定から始まり、自分の伝えたいことや思いは何なのかを常に考える日々を過ごせたことは、今後を生きる上で重要なヒントになりました。自分にとって記録よりも記憶に残る体験となりました。考えることの大切さ、楽しさを実感することができました」

* * *

また、同コンテストを主催したE.S.S. 同好会代表の玉木蒼大さん(外国語学部3年)は、大役を終えて、次のように振り返りました。

「この大会を運営するにあたって、昨年は色々な準備を行ってきましたが、全てが初めての経験で、大変なことも沢山ありました。しかし、その度に支えてくれた部員の仲間、また、アドバイスしてくださった先生方や職員の方々のお陰で無事に本大会を成功させることができました。私たちの大学から2人も入賞者が出て、本当に頑張ってきた甲斐がありました。今年もこの大会を開催いたしますので、ぜひご来場ください!」



E.S.S. 同好会代表の玉木さん

島田理事長が外務省で講演

「まなびとあそびのキャンパス」に高校生160名

硬式野球部が2部昇格へ!

「島田杯」で本学が1,3位入賞!

島田理事長が外務省で講演

「まなびとあそびのキャンパス」に高校生160名

硬式野球部が2部昇格へ!

「島田杯」で本学が1,3位入賞!

島田理事長が外務省で講演

「まなびとあそびのキャンパス」に高校生160名

硬式野球部が2部昇格へ!

「島田杯」で本学が1,3位入賞!

「まなびとあそびのキャンパス」に高校生160名

硬式野球部が2部昇格へ!

「島田杯」で本学が1,3位入賞!

島田理事長が外務省で講演

「まなびとあそびのキャンパス」に高校生160名

硬式野球部が2部昇格へ!

「島田杯」で本学が1,3位入賞!

島田理事長が外務省で講演

「まなびとあそびのキャンパス」に高校生160名

硬式野球部が2部昇格へ!

「島田杯」で本学が1,3位入賞!

島田理事長が外務省で講演

「まなびとあそびのキャンパス」に高校生160名

硬式野球部が2部昇格へ!

「島田杯」で本学が1,3位入賞!

高校

生徒11名がタイ研修で学ぶ

文部科学省よりSSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）の指定を受けている本校では、国際交流も積極的に行ってています。1月に、教育提携を結ぶタイ王国のプリンセス・チュラボーン科学高校・ペッチャブリー校（以下PCSHS-P）へ派遣された11名の本校生徒の活動について、SSH教育センターの蓮池一哉教諭から以下の報告が届きました。

本校は2012年、文科省からSSHの指定を受けたことを契機として、PCSHS-Pと教育提携を結びました。両校生徒の研究成果を発表し合い、互いに切磋琢磨すること、互いに文化について理解を深めることを目的として、2014年度より生徒を派遣し合ってきました。生徒たちは、学年によっては日本語でタイの生徒と意思疎通を図る高度なコミュニケーション能力、研究に対する新たな見解、タイと日本の文化や生活の違いなどを学びました。

本年度は1月5日～1月11日に、生徒11名、教員3名がPCSHS-Pへ派遣さ

れました。生徒たちは、学校の代表という自覚をもち、主体的に行動することが求められました。この研修を通じ、英語でタイの生徒と意思疎通を図る高度なコミュニケーション能力、研究に対する新たな見解、タイと日本の文化や生活の違いなどを学びました。

出発の日、フライトまでの時間やフライテの最中に、研究発表の原稿を見直したり、自分で作った英文を確認しました。生徒たちが宿泊する寮に案内されました。これから始まる異国での共同生活に、生徒たちも期待と不安が入り混じった様子でした。

2日目にはPCSHS-Pの生徒と本格的な顔合わせがあり、タイの生徒たちは笑顔で迎え入れてくれました。会場は、伝統菓子や工芸品の展示など縁日のような賑わいを見せしていました。

この研修を通じ、英語で同世代の生徒とコミュニケーションをとり、友人関係を築いたことは、英語力だけではなく、人間力の向上につながったと思います。

午後には引率教員2名が、「盲斑の測定」と「デブンの加水分解」の授業を行いました。2つとも実験が主となる授業でしたが、本校生徒たちはタ

イ生徒と協力して実験を実施。教員もこの日のため

に、英語と授業の練習を連

日行つきました。

5日目には、本研修のメソッドであるサイエンスフェアが行われました。

生徒たちは、この発表会に向け、昨年6月頃から実験

計画を立て、日本語のポスターを作り、それを英語に

直し、発表の練習、質疑応

答の練習と段階的に準備を行つきました。発表会で

は、その成果を十分に発揮し、英語で自身の研究成果を発表することができます。

12月9日、ふじみ野キャラバンバスで開かれました。

本学学術交流会が昨年

テーマとした「清華大学・

社会に関する日中交流」を

開催されました。更に、本校の10の研究

テーマのうち2つが、生徒

の投票数が多い研究に贈られる「ボビュラー賞」を獲

得しました。

修了式では、Alexandra Hambleton助教の司会のもと、Paul

Henri Caballeroさん(SJU)が流暢な日本語で代表挨拶を行い、

関係者から拍手喝采を浴びました。それを受け、文京学院校友会の大石理栄会長から英語でエールが贈られました。

続いて、櫻山義夫副学長・外国語学部教授が留学生個々に修了

証を手渡し、Jeanne M.Cook教授(CSB/SJU)の感謝の言葉をもって、修了式を終えました。

それぞれが想い出を胸に



充実した研修を終えて

ポスター発表でタイ生徒と交流



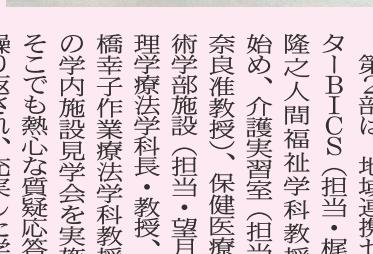
交流会で熱い意見交換



樋原教授（左）がBICSを案内



教員陣が「高齢者施策と高齢社会の現状と課題」について、次の7つの内容で講演しました。



交流を深めた両大学

大学院「保健医療科学研究科修士論文最終試験」一般公開!

【健康推進・リハビリテーション分野】

★飯島大志「座位側方リーチ課題における座圧中心移動距離に関係する因子の検討」
★大坂祐樹「脊柱アライメントの変化が歩行時の力学的エネルギー利用の有効性に及ぼす影響」★栗城洋平「統合失調症と健常成人の一口量・咀嚼回数の比較」★東理歩「呼吸筋の選択的収縮が深呼吸時の胸郭運動および呼吸機能に与える影響」★廣澤暁「胸郭側方並進運動における胸郭形状変化と胸腸肋筋の検討—左右の機能特性に着目して—」

【検査情報解析分野】

★赤羽浩太「骨髄異形成症候群における骨髓間葉系幹細胞による細胞増殖機序の解明」★大貫倖平「Pseudomonas aeruginosa non-MDRPとMDRPのバイオフィルム形成および病原因子に対するアスピリンの阻害効果の検討」★尾形洋輔「環状鉄芽球を伴う骨髄異形成症候群におけるスプライシング関連遺伝子変異の意義」★栗田友輔「緑膿菌に対するオウレンの抗菌活性及び各種病原因子の産生に与える影響」★越川拓郎「Neisseria gonorrhoeaeの分子疫学的解析およびベニシリン結合蛋白2の変異がセファロスパリン系抗生物質の感受性に与える影響」★鈴木周朔「In vitroでのマクロライド系薬少量長期曝露による緑膿菌への経時的影響」★立澤杏奈「Epstein-Barrウイルス感染に着目した口腔びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫・リンパ増殖性疾患の臨床病理学的および遺伝子変異の比較検討」★長谷川洋「反復性尿路感染症由来大腸菌の細胞侵入性に対するプロアントシアンの抑制効果の検討」★布施翔大「非監視下運動療法を行っている末梢動脈疾患による間歇性跛行患者の現状」

同研究科委員長として院生の発表を見守った古谷信彦教授は、次のように想いを語りました。「今年度も保健医療科学研究科に所属している2年生全員が無事に研究を終えて、『修士論文最終審査』を迎えることができました。この最終審査は、大学院生が自分の研究成果を口述発表するもので一般にも公開されています。2年生が、この大学院生活で得た知識、洞察力、研究手法を活用し、それぞれの職場で活躍できることを祈っています」

2017年度「保健医療科学研究科修士論文最終試験」が1月20日、本郷キャンパスS館で行われ、院生14名の発表の様子が一般公開されました。発表者とタイトルは次の通りです（敬称略）。